

4. 綾野、貴生川地域

(1) まとめ

- 他の地域に比べて人口や若い世代も多いが、区加入率が低い。区・自治会の役員の担い手が少ないのが大きな課題である。
- 自治振興会と区・自治会が力を合わせて課題解決に取り組み、区の相談窓口としての機能を発揮するなど、役割を明確になければならない。
- 神社、祭りが地域住民の大きな負担となっている。負担軽減が必要であるという意見が多かった。



(2) 個別意見（抜粋）

- ①区長の業務が多く、引き継いでいく人が少ない。区の事業の継続が今後難しくなる。半ば強制的なところがあるので組織改革が必要である。
- ②役員の人選に困っている。現在は抽選で何とか毎年決まっているが、組織のあり方を根本的に考えなければならない時期を迎えている。
- ③区長は退職した世代の方が担っているが、責任もあり、区長をやりたくない人ばかりである。また、若い世代に区役員をしてもらうとなると、仕事を休んで区長の仕事をしてもらうことになる。区・自治会の存続は難しい。
- ④ご近所の見守りや防災活動などに区・自治会の力を発揮していくべき。
- ⑤コロナ禍を経て、交流の大切さを実感した。ご近所同士で挨拶ができるようなコミュニティづくりが大切である。
- ⑦従来から神社、祭りが地域の交流の場であった。しかし、区民の数が減り若者の数が減り、神社の管理が大きな負担となっており、負担軽減が必要である。
- ⑧区・自治会で解決できない課題は、自治振興会で解決していきたい。課題解決型の自治振興会を目指している。
- ⑨区長の仕事が多岐にわたる。平日、休日、時間を問わず、区民への対応が求められる。平日の日中に仕事をしている区長および役員も多い。困りごとなどを相談しやすいよう、自治振興会は休日の窓口開放をお願いしたい。
- ⑩区・自治会、自治振興会ともに、単年ではなく複数年で課題を解決していく組織になるべきではないか。